



やっぱりおいしい  
ミエライズ



〈移る季節を感  
孫 セミ鳴かな  
私 そうだね朝  
孫 もう夏も終  
たなか・なつみ  
家、祖母・奥山と

# 技術生かし 地域活性化

## AIでウニ養殖を研究

デジタル技術を生かしたウニ養殖の手法を、鳥羽市の鳥羽商船高専で研究している。「水産業に限らず、技術を使い地域を活性化したい」と将来を見据える。



志摩市大王町波切出身。幼少期は磯で遊ぶなど海が身近な環境で育った。「パソコンができて面白そう」と高専に入学。最終学年の5年次に卒業研究のテーマを選ぶ際、ウニの養殖技術はどうかと教員にアドバイスを受けた。

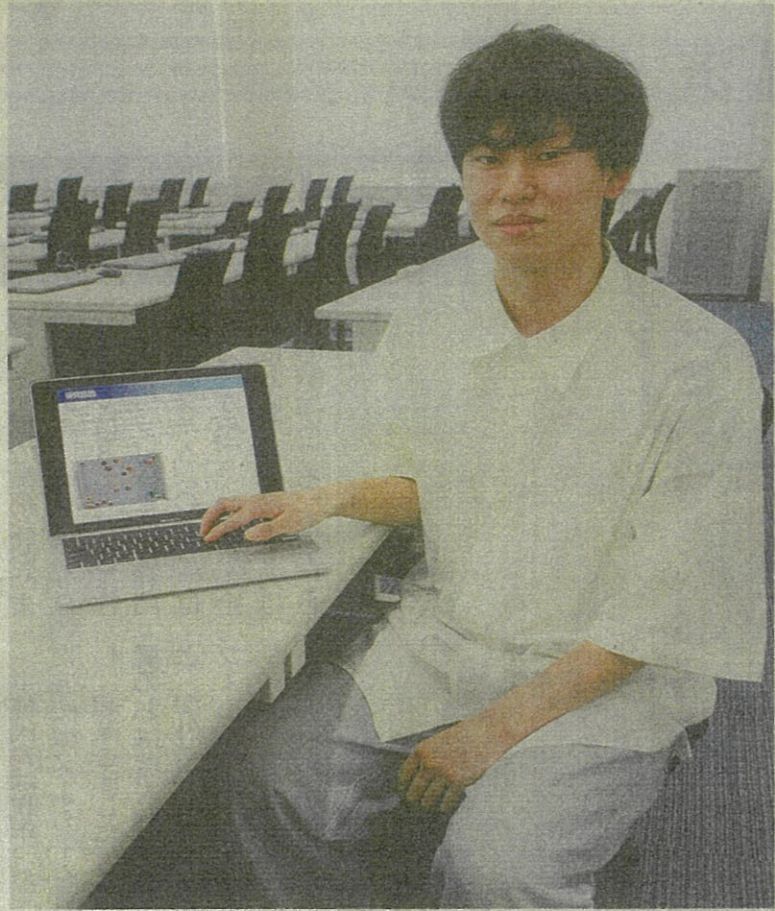
志摩など県南部では近年、海藻・海草の群落「藻場」が消失

する「磯焼け」が深刻化。環境変化で増えすぎたムラサキウニが、海藻類を食へ尽くすのも一因とされる。駆除ではなく捕まえて育成し、特産品として出荷する取り組みも各地で始まっているが、蓄養の手法は確立されていない。

「最適な餌やりをすれば、生産コストが下げられる」。そう考え、ウニの養殖いけすにカメラを設置して撮影し、人工知能(AI)でウニの移動経路や餌の減るペースを解析する研究に取り組む。「おなががすいている時の動きや餌の減り方が分かれば餌やりを最適化できる。給餌の自動化にもつながる」と説明する。今後は水温や餌の有無など条件を変えて仮説の検証を進める。

地元には「空気がきれいで自然豊か。時間がゆっくり流れている」と思いを寄せるが「この辺りでは就職が難しい。一度は都会に出てみるかも。いずれは地方で活性化に携わりたい」と語る。「住みやすい町をつくり、自分もそこに住む。地方を人が暮らし続けられる、持続可能な場所にしたい」と夢を描いた。

(鈴木沙弥)



鳥羽商船高専専攻科1年 松井 竣哉さん(21) 〓 志摩市